

2023年5月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

## 「活・人・経・営<sup>®</sup>」コラム第98回

### <感動がもたらす経営成果>

今春3月、WBC (World Baseball Classic) で日本チームが7戦全勝で優勝しました。コロナ禍や暗くなりがちなニュースの多い昨今、出場選手は国民の大きな期待を背に、緊張感を楽しむ姿勢で積極的に持ち味を発揮し、明るく澁刺としたチームプレーで、私たちに大きな感動をもたらしてくれました。

3/24付日経朝刊(ビデオリサーチ・関東地区)によると、決勝(米国戦)の平均世帯視聴率42.4%、瞬間最高視聴率(9回表)46%を記録し、準々決勝(イタリア戦)では平均世帯視聴率が、今シリーズ最高の48.0%を記録しました。テレビ生中継を1試合でも見た人(4歳以上、1分以上視聴すれば見たと定義)は、国内で推計9,446万人にも上り、宮内庁の報道では、天皇、皇后両陛下と長女愛子さまも決勝戦をテレビ観戦され、優勝の喜びと共に両チームの健闘をたたえられたとのことでした。

これだけの関心を集め、優勝に導いた栗山監督を評価する声は多く、勝てる選手を集め、各選手の強みを引き出して組織総合力を発揮したリーダーシップや人間力は、数々の感動シーンの源泉となり、多くの人々の心に物語となって余韻を残しました。それらが数百億円の経済的効果を生んだといわれ、老若男女を問わず観戦者が元気や勇気をもらい、大きな社会的効果も生まれました。

栗山監督はビジョンの実現を「夢は正夢」、組織総合力を「全員野球」と表現し、ウエルビーイング経営(組織で掲げた目標の達成に向けて、社員がやらされ感でなく、自主的に自分の役割を率先・理解し、その責任を果たす事による達成感や自己実現を感じる経営)を凝縮したような采配で臨み、結果的にチームの内・外に多くの感動が生まれ、世界一という成果を創出しました。この感動がもたらす経営的な成果は大きく、企業経営にとっても身近な成功事例でしょう。

### <最高の仕事への動機づけ>

今日必要とされていることは、外からの恐怖を、仕事に対する内からの動機に代えることである。ここにおいて意味あるものは、満足ではなく責任である。

だれか他の者が行うことについては満足もありうる。しかし自らが行うことについては、その行動と影響についての責任があるだけである。すなわち、自らが行うことについては、常に不満がなければならず、つねによりよく行おうとする欲求がなければならない。

— 出典:「現代の経営〈下〉」P.F.ドラッカー著 上田惇生訳—